

# 新城設楽普及だより

令和7年 新春号

新城設楽農林水産事務所

農業改良普及課 北設楽郡設楽町田口字小貝津6-2

TEL: 0536-62-0546 FAX: 0536-62-1533

新城駐在室 新城市字石名号20-1

TEL: 0536-23-2172 FAX: 0536-23-6010

メール(共通) shinshiroshitara-fukyu@pref.aichi.lg.jp

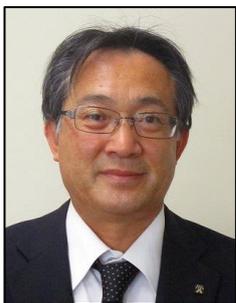
## 新年の御挨拶

新年にあたり、謹んで御挨拶を申し上げます。

令和6年は、能登半島地震の発災をはじめ、ウクライナ侵攻及びパレスチナ問題等による国際情勢の影響、さらに農政では「食料・農業・農村基本法」の改正法の成立など、日本農業を取り巻く状況に大きな変化が生じました。

こうした中、農業改良普及課では、新城・設楽地域の農業振興と農業者を支援するため、引き続き「意欲のある担い手の確保・育成」「産地の収益力向上に向けた取組の支援」「環境と安全に配慮した持続可能な農業の推進」「活力のある地域づくりに向けた取組支援」を4本柱とし、市町村・関係団体と連携し活動してまいります。

本年も協同農業普及事業の運営に御理解と御協力を賜りますようお願いするとともに、皆様の益々の御健勝を祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。



課長  
井上 勝弘



## 三士の新規認定者の御紹介

令和6年11月21日に認定式が愛知県庁で開催され、愛知県知事から農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士に4名の方が認定されました。地域農業の発展、地域づくりの活動に寄与することが期待されます。



石田 靖典  
〈農業経営士〉  
・新城市  
・施設野菜(トマト)



佐々木 裕也  
〈農業経営士〉  
・設楽町  
・施設野菜(ミニトマト)



森 智子  
〈農村生活アドバイザー〉  
・新城市  
・畜産(乳用牛)



松井 港  
〈青年農業士〉  
・東栄町  
・肉用鶏

# ＊円滑な経営継承に向けた農業経営セミナーを開催

農業改良普及課では、農業後継者の円滑な経営継承を目的に、親元就農した後継者などを対象とした農業経営セミナーを令和6年8月7日に新城設楽総合庁舎で開催しました。

今回のセミナーは、就農相談などで対応した複数の後継者の方から、経営継承に必要な手続きを知りたいとの要望があり、県の農業経営力向上支援事業を活用して開催したもので、親元就農した後継者や経営主など7組10名が参加しました。

当日は、税理士法人Agataの安形京子氏を招き、「農業経営継承のポイント」をテーマに、経営移譲の進め方や資産の継承方法等を紹介しました。また、参加者からの事前質問に回答する形で、経営継承に関する相談にもお答えいただくなど、個々が抱える問題解決にもつなげるセミナーとなりました。

農業経営力向上支援事業では、専門家派遣による個別の経営相談もしています。経営に関する相談がありましたら、是非お声がけください。



経営継承のポイントを学ぶ参加者

## 鳳来牛消費者交流イベント🐮

鳳来牛のファンづくりを目的として、11月10日に新城市内中学生と親を対象にイベントを開催しました。鳳来牛振興協議会が一昨年実施した飲食店対象の試食会の結果を活かし、今年度の牧場見学ツアーと試食会を開催しました。

生産現場を初めて見た参加者たちは、牛に触れて、生産農家のこだわりを聞くことで、「名前を聞いたことがあるだけ」の今までよりも一層、鳳来牛を身近に感じていました。

牧場見学では、説明のみにとどまらず、えさやり体験や鼻紋採取の体験などを実施しました。参加者からは貴重な機会であったと大変好評であり、来年度以降の実施希望の声もありました。

協議会の会長である渡辺氏は、より一層鳳来牛のことを身近に感じ、お祝いの日一品として手に取っていただけるよう、今後も農家で協力しながらこだわりと愛情をもって牛を生産していきたいと意気込みました。



牛をブラッシングする中学生

## 初開催！エゴマ収穫体験イベント

農業改良普及課では、農業関連団体や市町村と連携して管内の農畜産物を普及する活動を行っています。

今年度は、10月27日に設楽町で、エゴマ研究会が観光協会とコラボした収穫体験イベントを初めて開催しました。

本イベントは、設楽町産エゴマの宣伝や関係人口の増加を目的としており、町外から子ども4名を含む計21名が参加しました。参加者は、剪定ばさみでエゴマを収穫してハウスに立てかけたり、前もって収穫・乾燥させておいた早生品種「No.7」を使って脱穀・唐箕作業の体験を行いました。また、エゴマの実からタレを作り、五平餅に塗って味わいました。

参加した子ども達は「茎を切るのが楽しかった。作りたての五平餅が美味しかった」と話しました。イベントを主催した研究会会長は「今後はエゴマの定植体験も行えたら」と、意気込みを示しました。



収穫作業を行う参加者